

木綿・むら染め



砧青磁 きぬたせいじ
 藤紫 ふじむらさき
 黄唐茶 きからちゃ
 勿忘草色 わすれなくさいろ
 裏葉色 うらはいろ
 里桜 さとざくら



金木犀 きんもくせい
 鳥の子 とりの子
 紙屋紙 かみやがみ
 千草 ちくさ
 翁苔 おきなごけ
 蘇芳 すおう



京鹿子 きょうかのこ
 薔薇 しょうび
 洒落柿 しゃれがき
 御納戸 おなんど
 檜皮 ひはだ
 躑躅色 つつじいろ



菜の花 なのはな
 萌黄 もえぎ
 支子 ちなし
 藍玉 らんぎょく
 褐色 かちいろ
 あられ・紫



あられ・緑 あられ・黒 あられ・ピンク あられ・赤 三色あられ 縞きなり



縞みどり 縞あお 絞り・緑 絞り・ピンク 絞り・黒 星七宝・紺



星七宝・赤

木綿・ildastudio (イルダスタジオ)



宝石・アオ 宝石・ミズ しゃぼん・はる しゃぼん・ふゆ モザイク・ゆうひ モザイク・なぎさ

木綿・Tromso style (トロムソスタイル)



YOISUBA・ネイビー マーブル・ブラック すぐり・ブラック すぐり・ベージュ フローラル・グリーン フローラル・ピンク



ブーケ・ブルー ブーケ・レッド ブチフラワー・ピンク ブチフラワー・ブルーグリーン

木綿 / Cotton

No.021 砧青磁 (きぬたせいじ) スカイブルー
空のように澄んだ青、玉のように色調の深い、かの昔最上とされた青磁の色。

No.024 黄唐茶 (きからちや) ブラウン
江戸前〜中期の流行り色。初期の小袖縞地色に多く用いられました。

No.026 裏葉色 (うらはいろ) セラドングリーン
葛の葉裏の銀がかった緑色。江戸町方好みのきもの色でもありました。

No.028 金木犀 (きんもくせい) イエロー
秋の気候の良い時に花が開き、花の香をただよわせます。

No.030 紙屋紙 (かみやがみ) グレー
反古紙を漉き返して用いた、淡墨色をした和紙の色。

No.032 翁苔 (おきなごけ) モスグリーン
低山地に多く生える、苔のような黄色味の深い萌黄色。

No.034 京鹿子 (きょうかのこ) レッド
西染の深い赤色。歌舞伎舞踊のひとつ「京鹿子娘道成寺」の衣装から。

No.036 洒落柿 (しゃれがき) オレンジ
元禄頃までは晒柿と呼ばれていた色。江戸人が洒落てこの名で呼ぶようになりました。

No.038 檜皮 (ひはだ) セビア
ひのきの皮の色からきた色名。戦国武将に愛された色でもあります。

No.041 菜の花 (なののはな) プリリアントイエロー
菜の花のような明るい黄色に用いられる色で、山吹と共に黄色の花を代表する色名です。

No.043 支子 (くちなし) タンジェリン
紅花と支子の実により染色された色で、萱草色・柑子色も同様な色です。支子の単一染は暖かみのあるやや赤色の黄色で、黄支子といわれます。支子は「口無し」ということから「いわぬ色」ともいわれました。

No.045 褐色 (かちいろ) カチイロ
藍の葉を搥いて染料を作ったこと、あるいは被染物に濃くしみ込ませるために掬つことから、掬色(かちいろ)・褐色(かちいろ)・勝色といいます。武將は、藍染の質実剛健さを信衆に、勝つにつながらる縁起をかついで、褐色鹹しの籠を愛用しました。

No.023 藤紫 (ふじむらさき) グレープ
明治末〜大正時代に生まれた、ハイカラ好みの知性的な藤色。

No.025 勿忘草色 (わすれなくさいろ) マリンブルー
可憐で清々しい趣きに浪漫的な思い込められた空の青。

No.027 里桜 (さとざくら) ピンク
日本を代表する花の色。春爛漫の京都を象徴しています。

No.029 鳥の子 (とりのこ) ベージュ
鶏卵の殻の色に似ているから名付けられました。もとは重色目の名。

No.031 千草 (ちくさ) ネイビーブルー
つきさき(露草)の名から転訛した、緑味を含みぬがえた美しい青色。

No.033 蘇芳 (すおう) ワイン
スオウの木を染色原料とした紫紅色。似せ紫としても用いられました。

No.035 蕃薔 (しょうび) ローズピンク
蕃薔(ばら)を古くは茨、蕃薔(しょうび)と表し、その花弁の色。

No.037 御納戸 (おなんど) インディゴ
灰味の暗い青色。暗い地の意から付けられましたが、色名には諸説があります。

No.040 麝香色 (つっじいろ) ビビッドピンク
赤いツツジの花弁の色で赤みの赤紫色に用いられます。牡丹色とともに、赤紫系を表す伝統色名のひとつです。

No.042 萌黄 (もえぎ) フレッシュグリーン
新緑の草木が生気を帯び、萌え出るような色をいいます。冴えた黄緑色を表す代表的な伝統色名に用いられます。浅緑と同様に春の色の一つです。

No.044 藍玉 (らんぎょく) アクアブルー
緑と青の中間の鮮やかな色が印象的な色。名前は青い海のような清々しさと穏やかさを持つ美しい海のような宝石、「アクアマリン」の和名からつけました。

本麻 / Linen

No.003 苗色 (なえいろ) グリーン
稲の苗が植わった様からきた色名で、萌葱の明るいい色。

No.006 青鈍 (あおにび) グレー
江戸時代後期に、粋な藍色として大変愛用された青味がかった鈍色。

No.008 葩 (はなびらもち) ピンク
甘煮の牛蒡と薄紅色の味噌餡を薄い餅で包んだ和菓子から。

No.010 石竹 (せきちく) オレンジ
ナデシコ科の多年草。唐撫子、常夏とも呼ばれて栽培されました。

No.016 空色 (そらいろ) ネイビーブルー
元禄の晴れやかな頃を中心に好まれた、明るい藍色。

No.018 錆絵 (さびえ) ダークブラウン
初期の京焼に見られる、鉄絵の具で描かれた侘びた風情と古朴な器柄の色。

No.021 印度藍 (いんどあい) インディゴ
藍染の色素インジゴチン(青藍)で染められた美しい青の色。

No.023 藤紫 (ふじむらさき) パープル
明治末〜大正時代に生まれた、ハイカラ好みの知性的な藤色。

No.005 浅緑 (あさはなだ) ブルー
藍の単一染の浅い緑。「はなだ」は今日の青色の古名です。

No.007 鳥の子 (とりのこ) ナチュラル
鶏卵の殻の色に似るから名付けられました。もとは重色目の名。

No.009 橘 (たちばな) イエロー
ミカン種の数少ない日本原産種。不老不死の霊果としても珍重されていました。

No.015 丁字茶 (ちようじちゃ) ブラウン
平安時代から行われた丁字染(香染)を茶がからせた黄褐色をいいます。

No.017 墨 (すみ) ブラック
墨の五彩、焦・濃・重・淡・清の階調の一番濃い焦墨を指す黒に近い灰黒色。

No.020 蘗茶 (てんちゃ) モスグリーン
淡い緑の色合いと甘い香、香ばしい味わいの京宇治茶の色。

No.022 麝香色 (つっじいろ) ビビッドピンク
赤いツツジの花弁の色で赤みの赤紫色に用いられます。牡丹色とともに、赤紫系を表す伝統色名のひとつです。